

JRバス盛岡支店分会では夏季手当妥結結果 についての切実な思いを、「組合員の声」として 掲示しました。しかし・・・

Part1

掲示した翌日（6月28日）、現場長から分会長（公休日）へ電話での呼び出しがあり以下のやり取りがありました。

会社（現場長）

組合（分会長）



「規律に反している。掲示板を貸せなくなるかも。現場ではなく本社が貸し出している。貸すも貸さないも本社次第。」
「掲示板貸し出しの際の規約に禁止事項が書いてある。」

掲示板を活用した「怒りの声」などの正当性を主張しつつ、適切ではないと思う部分は現場長に謝罪し掲示物は剥がしました。

「これで終わり。
掲示板も今まで通り使って大丈夫。」



掲示物に関する問題は解決済と判断しました。しかし・・・

7月9日、現場長から再度分会長への呼び出しがありました。分会長は乗務の合間（休憩時間）で約1時間ほどのやりとりになります。会社は課長も同席しています。

「掲示に「ダイヤがきつい」とあった。そんなにきついなら盛岡をラクにしましょう。その代わり20人転勤が発生すると本社が言っている。」
「掲示物も訴訟だってあり得る。」



「掲示板に声があったからラクにさせると本社が言っている。」
「（代表選では）未加入者は『ダイヤがきつい』という掲示に共感して投票したの难道う？」

「会社が言う規約に反した点については謝罪した。なぜ今頃になってまた言うのか？」
掲示板の問題については解決済のはず

脅しであると強く抗議

7月13日、再々度のやり取りが行われました。



（20名転勤の根拠は）あくまで可能性の話である。根拠については本社に聞いてくれ。ラクをしたいならダイヤを減らして支店を縮小する。

現場長は支店を守りたいと我々に主張するがなぜ本社に意見、反論、主張しないのか？

Part2に続く

掲示板の「組合員の声」を問題にするのは 労働組合活動への支配介入であり「不当労働行為」だ Part2

7月13日に現場長は「20名転勤の根拠はあくまで可能性の話である。根拠については本社に聞いてくれ。」と言っていますが…

「行路がきつい」「乗りたくない」のであれば、そういう方法もあるということ。その話は本社からきている。私は本社の人間じゃないし判断しているわけではない。

純粹にバス盛岡支店の行路は久慈と岩泉だけ。そうなれば20名の余剰となる。

どう思っているのかを面談で聞いて本社に報告することになっている。面談の決め手となったのは掲示板だ。

と現場長は発言しています。

みなさん、このような言動をどう感じますか？

掲示した組合員の声には「ダイヤがきついから『仕事をしない、乗りたくない』とは書かれていません。コロナ禍でも安全を最優先に働いてきたにも関わらず、定期昇給のカット、低額の夏季手当に対する悲鳴であり怒りの声です。

その声を「ダイヤがきつい」とすり替え、職場の縮小と転勤を匂わせる脅しと取れる言動が行われました。また分会掲示板の文言を引用することで「文句を言う東労組」「働かない労働組合」を印象付けようとしているとしか見えません。

物言えぬ職場にしてはなりません！

不当労働行為に屈せず

東労組運動を堂々と押し進めよう！！

